

保育目標『生き生きとあそぶ子ども』 ①健康な子ども ②仲間と一緒に育つ子ども ③創造力豊かな子ども

項目	重要項目	達成目標・具体的施策	年度末評価
学びの場である保育の充実	「愛情」を基調とした自尊感情の構築	・個々を大切にしたり関わりを行う中で子どもの自尊感情を高めるように常に意識を持ち、月1回以上、子どもの姿についての話し合いを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人権を考え、一人の人間として尊重することを意識し、遊びを見守ったり関わったりするように心がけている。 ・乳児幼児共に、月3回程度、一人一人に視点をあてた話し合いを行い、内面的な部分も受容できるように子ども理解に努めた。 ・それぞれの職員が様々な立場から違った視点を持って関わることで様々な「自分」を認めていける土台づくりができてきている。 ・子どもを「いいね」といえるように会話を進めているが、全ての職員が受容的、応答的にはできてない部分もあり、今後も意識を持っていきたい
	資質・能力を育む保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で学んだ事を職員間で伝達しあったり、掲示したりして共有する。 ・月2回以上、写真を使った子どもの姿についての話し合いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の子どもの姿を写真で読み取る話し合いを月3回以上行う。保育指針に基づいた「資質能力の3つの柱」に視点を当て、内面的な読み取りをして、深い子ども理解に繋がった。しかし、「10の姿」についての読み取りが不十分だと感じるので、そこにも視点をあててすすめていきたい。 ・月1回、環境の中で遊ぶ個々の子どもの姿も読み取り、今後の展開を考え、再構築を繰り返した。 ・語り合いの中でどこが育ち、何を学んでいるのかを考え、他職員の意見も聞いて研鑽を重ねる事ができた。 ・指針を意識しすぎると意見の出にくい時もあるが、積み重ねが大切であるので、継続していきたい。
	ちがいを認め合える環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が人権意識を高めるために年1回研修を行う。 ・職員だけでなく、子ども同士も違いを認め合える環境づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全体で人権研修に参加し、目に見える部分だけで判断するのではなく、一人一人の子ども思いなど深いところまで掘り下げて読み取る大切さを改めて学んだ。今後も人権意識を磨くように取り組んでいきたい。 ・他の国の生活習慣や出来事、食べ物などについての掲示を行い、興味を持てる環境の工夫をした。 ・自身の価値観で子どもを見ず、様々なアプローチを複数の保育士が行うことで、個々の個性を尊重している。 ・主体的に特に興味を持ったことを尊重して経験・探求できる環境を整えている。
保育者の資質向上	職員研修・園内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招いて園内研修を年1回行う。 ・写真での子どもの姿の読み取りを月3回以上行う。 ・園内環境構成について月1回の話し合いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招いた園内研修で子どもの姿を深く読み取る大切さについて学び合う事ができた。 ・他園に研修に行った際、参考になる環境の写真や研修報告を職員間で共有し資質向上に努めた。 ・月3回以上、写真を通した個々の子どもの読み取りを行い、子ども理解に努めた。 ・園庭の環境について共通理解をするために幼児乳児共に話し合いを繰り返した。 ・全員が積極的に語る事が難しい時もあったが、語りやすくなるために進め方に工夫を重ねた。
	チーム保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス枠を超えてチームで子どもの読み取りを月3回以上行う。 ・環境構成を月1回以上チームで話し合いをして、再構築を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問に感じたことだけでなく、日頃から自分の考えを伝えることができています。 ・職員全体が園のためにできる事を考え、それぞれの立場から様々な視点で子どもの姿を共有できるようになってきた。 ・チームとして考えた時に個々に様々な思いがあり、互いに伝えきれないこともあるので、話し合いをしやすい環境を作り、よりよいチームで連携できるようにしていきたい。
	小学校教育との接続	<ul style="list-style-type: none"> ・参観可能な行事について案内をする。 ・保育所で経験している事を小学校へ知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自園の公開保育研修の案内を小学校に送るなど積極的な関わりを求めた。 ・職員が小学校プールでのヤゴ取りやオープンスクールに参加したり5歳児が小学校の運動場で凧あげをしたり交流を意識することで少しずつ関わりが出てきている。 ・幼保小の接続について研修を受けることで接続期の重要性は感じているが具体的に行動に移せていないことも多い。引き続きかけ橋期の重要性を職員が意識しながら保育していけるようにしていきたい。
	備考	<p>※避難訓練年間計画表を作成し、毎月1回以上、避難訓練を実施する。 ※災害発生時の待機中に必要となる備品や備蓄品を用意し、年1回点検している。 ※毎月1回保育所、こども園、児童発達支援センターの担当者が集まり、リスク担当者を開催し、各園のリスク事案について共有し再発防止に努めている。 ※リスク担当者で検討し、作成した各種マニュアルを全園（保育所、こども園、児童発達支援センター）で共通理解し、安全・安心な園生活を送れるよう職員一同努めている。</p>	